

2011年(平成23年)8月8日(月曜日)



霧の中、登山道を進む被災地の子どもたち
=富士山で(グラウンドワーク三島提供)

被災地の子どもたち 富士山に挑む

三島市のNPO法人グラウンドワーク三島が招待した宮城県石巻市、福島県いわき市の小中学生らが七日、富士登山に挑戦した。

参加したのは石巻、いわき両市の未就学児や小中学生六十一人と、その家族ら二十七人。ボラン

ティアの大学生も付き添った。同日正午ごろに富

士宮口新五合目(約二千四百㍎)を出発。新六合目(約二千五百㍎)から宝永火口を回り、樹林帯を抜けて約三時間半後に下山した。

途中は雨やひょう、雷にも見舞われる天候だったが、全員が最後まで歩き通した。石巻市立門脇中三年の平和樹君(五)は「日本一の山だから一度は登ってみたかった。予想以上に天気が変わりや



三島のNPO 福島・宮城から招待

すく、寒い時もあった」と驚いた様子。いわき市立久之浜第一小六年の折原恵映さん(七)は「少し登っただけで息が苦しくなったけど、何とか歩けた。次は頂上まで行ってみたい」と喜んでいた。自宅が津波で流された子もいたが、夏休みで唯一だという旅行を満喫していた。

これまで同法人は、東日本大震災の被災地の親子を県東部に二泊三日で招待する「心を元気にするショートツアー」を六回開き、計約三百十人が参加。

今回は夏休みに合わせて、五、八日の三泊四日の日程で伊東市の伊豆高原に滞在。六日は伊豆市の観光施設で遊んでから、「出前寺子屋教室」でボランティアの大学生から勉強を教わった。八日朝に帰路に就く。

(谷岡聖史)